



東林山 法雲寺

〒667-1311兵庫県美方郡村岡町村岡2365

TEL：0796-98-1151 FAX：0796-98-1168

法雲寺報

<http://www2.nkansai.ne.jp/org/houunji> Eメール：houunji@io.ocn.ne.jp

再生の春となりました

早いもので平成14年も早4月、あっという間に一年の四分の一が過ぎてしまいました。私も40代に入り中年の仲間入りをしたせいか、年々時間が早く経過しているように感じてしまいます。「思ったように物事が満足に出来ないまま時間だけがただ経過して行く」と言うことは、逆に考えると、「時間内に自分が思った通りに物事が出来ていない。」つまり、自分の能力が若いころより劣ってきているのかも知れません。

この冬も雪は例年の如くで相当量降ったのですが、水道管が凍結するほどの大寒波の襲来もなく雪解けを迎えられたこと何よりと感謝いたして居ります。確か去年の春の彼岸は雪が残っていてお墓参りが出来なかったように記憶しています。そう思えば結構な暖冬だったのかも知れません。皆さんの冬は如何でしたでしょうか？

先ほどの「時間が早く流れる」では有りませんが、巡りくる季節の有り難さを感じます。これも年を重ねたせいかも知れません。冬の次には必ず暖かな日差しが降り注ぐ春が訪れる。常に移ろい、留まる事をせず、日々刻々と変化する自然。何の変哲のない事ですが、ゆったりとしたリズムで千古の昔から変わることない四季の繰り返しを現代に生きる我々にも与えてくれる自然。一見、科学万能で強固磐石はかなとあやうと思われる現代社会ですが、今の行き詰まった状況を見ると、「儚さ」や「危うさ」を感じます。世俗の乱れや社会の不安に左右されることなく、完全に繰り返される自然の営みには、人智を超えた雄大・崇高なものを感じます。確かに先人の智恵と努力によって現代の社会は「無い物は何も無い」程の豊かな社会を実現しました。この点に置いては誰も恩恵を受け、何の不都合は無い筈なのですが、如何でしょうか？誰もが楽しく安心して生活できる社会となっているのでしょうか？言いようの無い不安と疑いの心が社会全体を包み込んでいような気がします。

「食足りて礼節を知る」という言葉がありますが、人は生活の豊かさを求め今まで努力して来ました。そして、既に十二分に足りている筈です。しかし、殺伐とした世相や、欲の為に道義を曲げてまで自分の思いを押し付けようとする話は毎日繰り返して伝わってきます。「誰でもやっている事だ・・・」と思う自分自身にも冷ややかなものを感じます。本当に世の中はどこへ向かって進んでいるのでしょうか。

昔、人々は自然の中、四季の移ろいの中に生・死(輪廻)を感じていたのかも知れません。春に芽生え、夏に盛りを迎え、秋には結実し、冬には枯れていく・・・つまり、春に生まれ、冬には死ぬ、そして又巡りくる春には再生する。・・・そしてそれが際限なく繰り返される。「生まれ変わり、死に変わりする姿」(輪廻)を、四季の変化の中から感じ取っていたのかも知れません。

人々は自然の中に、空気や風や水の中に神仏の存在を感じ、自然をおそ畏れ、自然をかしこ賢み、日々接する自然に人智を超えた偉大な存在を感じ

ながら生活していました。

そこにある人間の姿は自然の中で生かされている存在であり、自分と言う存在はほんのチツポケな存在であることを認識して生きてきたのかも知れません。様々な恩恵を与えてくれる自然、また一変して災いをもたらす自然に対し、感謝の心や祈り、畏敬の気持ちが存在していたのでしょ。

今の世の中は家庭でも、会社でも常に快適な環境の中で生活しています。どこに居ても春のような状態の中で生活しています。日々の忙しさの中では、季節の移ろいや自然の中の人間の存在などと言う事は意識するのは難しいことなのかも知れませんが、地球から出て行かない限りは、どう考えても我々人間が生活できる土台は、自然の中にしか見出すことは出来ません。

— の50年余り、社会は「人間中心」という考え方で進んできました。人間は科学技術の力を借りて自然を支配しようとし、人々は自然の中に感じていた神仏の存在を黙殺してきました。いつから人間はそんなに偉くなったのでしょうか？傲慢になったのでしょうか？今では「自然の中に神仏が・・・」等と言っても、「馬鹿なことを・・・」と一笑されるのが落ちです。

しかし、人間中心という考え方を推し進めれば、結局は自分中心と言うところにたどり着きます。(人間の中でも、自分が一番可愛い)自分の目的達成のためには手段を選ばない人間が増えている事をみても、人間中心の考え方が極限まで来ると恐ろしいものを感じます。果たして今のままの考えを続けて行くことは正しいことなのでしょうか？

今一度、我々の在り方について考え直さなければならない時が来ているように思います。人間の在り方、翻って言えば自分自身の在り方も含めて一度リセットしなくてはならない時が来ているのでは無いでしょうか。

遥か千古の昔から繰り返されてきた自然の営み・四季の移ろいの中に生まれ、その中でたまたま生かされている自分、空気や水(自然)の中に神仏が宿りそのお陰で生を繋ぐことが出来ている自分。といった謙虚な立場に立って自分を見つめれば、同じ世界でも違った風景に見えるかも知れません。

四季の変化を肌で感じ取るだけでも、世界が変わるかも知れません。

ひょっとしたら、我々が忘れていた、「空気や水の中に宿る神仏の存在を感じる」感覚が蘇って来るかも知れません。

